

洗足会100年記念に向けての講演 講演者代表理事 小場瀬令二



# <洗足田園住宅地に至る道>

2024年2月24日(土) 14:00~16:00

洗足会館 入場無料 会員外の方も歓迎

## 講演概要

### <洗足田園住宅地は一日にしてならず>

田園都市のルーツは英国のハワードが20世紀初めに発表した「明日の田園都市」にある。そして、ロンドンから55Km 離れた郊外に田園都市が実際に開発された。それを知った「日本資本主義の父」渋沢栄一は日本にも田園住宅地開発をしようと、目黒駅から郊外部の洗足の地を選んだ。鉄道が敷設され、田園都市会社によってまとまった住宅地が開発された。その路線は江戸時代に門前市をなしていた目黒不動があったことが重要だったと考えられる。

### <人が住んでいなくて、人が集まっている場所>

鉄道を敷設する時の大原則は、「人の住んでいないところに敷設し、人の集まっているところの近くに駅を設置する。」である。そして、「鉄道を敷設したら、沿線に人を住ませ、大いに鉄道を利用してもらう算段を立てる」のである。このビジネスモデルは、関西で「ミミズの一三」と言われていた阪急の社長小林一三の発明である。田園都市会社も同様のモデルを採用し、沿線開発を行っていった。

### <インフラの不備はコミュニティ施設でお許しを!>

洗足田園住宅地の開発趣意書では、欧米の住宅地に見劣りしない住宅地を整備する予定であったが、インフラ整備に開発費がかかり、完璧とはいかなかった。それに対して、住宅地購入者から突き上げがあり、会社は、インフラ整備が完璧でない代わりに、コミュニティ施設を建設する土地と予算を寄付することとなった。それが、今日の洗足会であり、洗足会館の施設につながっているのである。

### <軍需工場もない住宅地に米軍は空襲した?>

洗足住宅地は太平洋戦争時、米軍による空襲を受け、被害を受けました。その理由は実は戦略物資を作る工場が近くにあったようです。また戦後焼け残った住宅は米軍により接收を受けたようです。

講演者:小場瀬令二(おばせれいじ)1948年東京目黒生まれ。洗足住宅地に50年居住。2023年度から洗足会代表理事。建築・都市計画・まちづくりを専門とし、筑波大学で教育に関わり、退官後、練馬まちづくりセンターの所長。現在は現職、趣味は「食える景観」創り

洗足会館: e-mail senzokukai@pj8.so-net.ne.jp

URL <http://www.senzokukai.org>

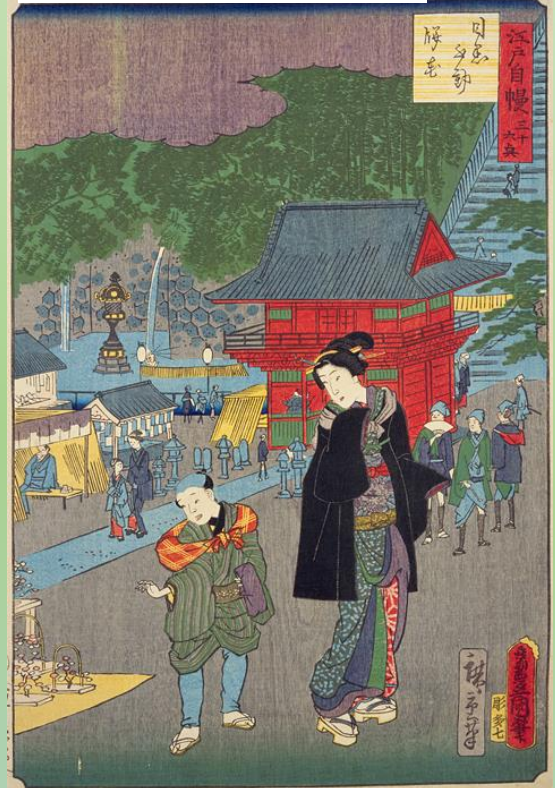
〒142-0062 品川区小山7-5-18

TEL・FAX 03-3781-1455



江戸の朱引内と墨引内  
お不動様のところだけイレギュラーになっている

大都市のルーツ(4)  
「朱引内」と「墨引内」  
巨大都市江戸御府内



江戸の盛り場目黒不動(出典江戸自慢三六興)



大木が残る洗足駅と駅前のイギリス風の建物の田園都市会社の本社(意気込みを感じます)

